国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
107

うつほ物語

あて宮

十二

今校本十七の巻

古本十の巻

128. 6. 7

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

あてそや

巻十二

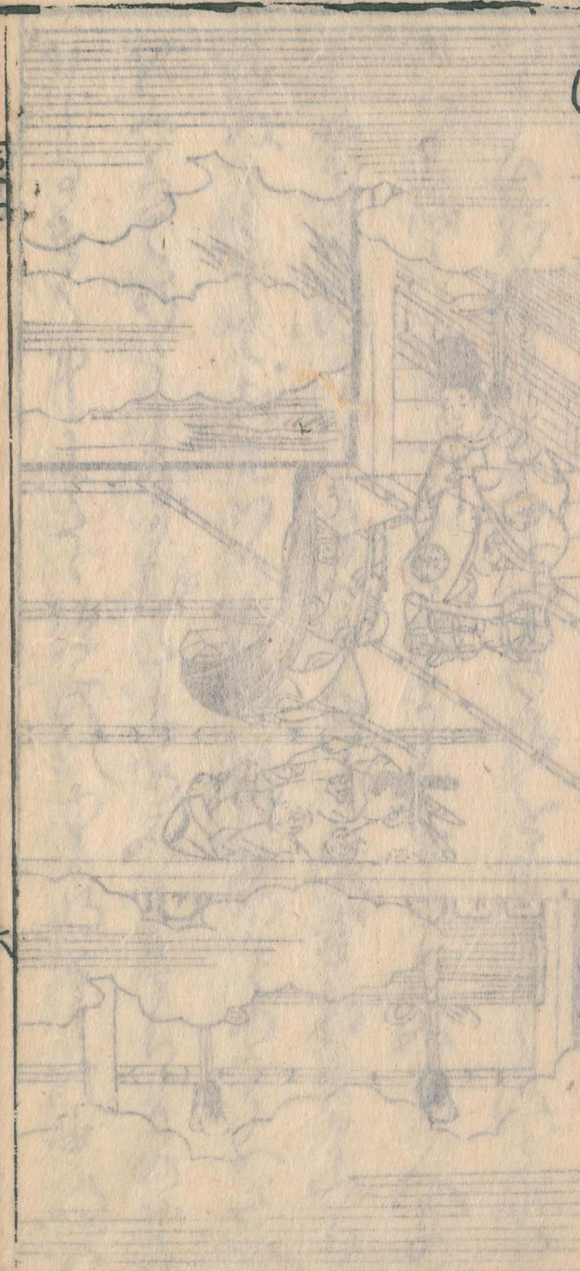
大正
4. 7. 20
購求

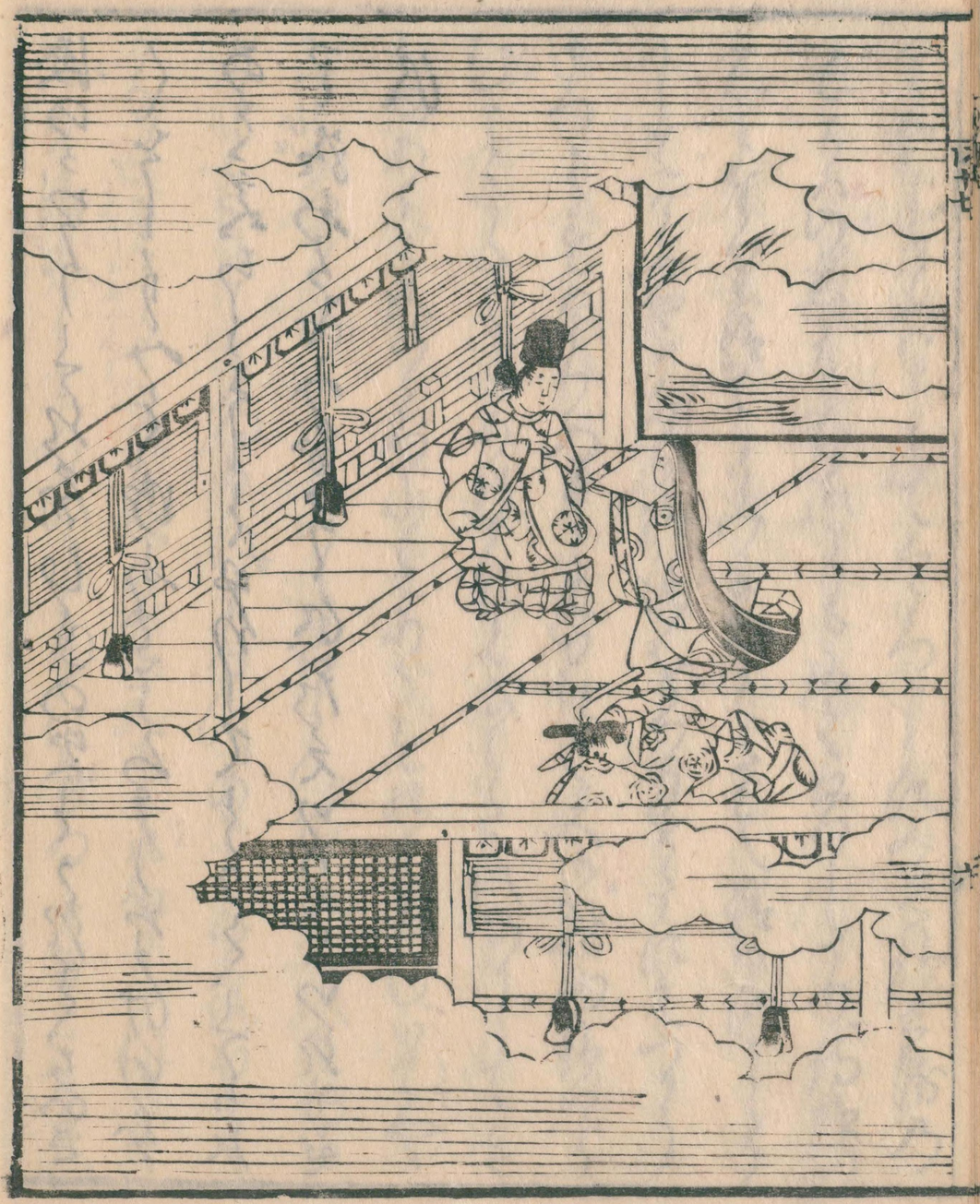
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用





おとゝひををこゝろひとゝきて小指のさきに男へ云ふ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

まゆみの紙
檀紙をそいふ
ユまみろろくくよ
みまき紙そつ
けくいこれ用ー
おかくう
異本和名抄 紙有色紙
ー紙屋ー松ー河苔ー
紐ー薄用ー等名」

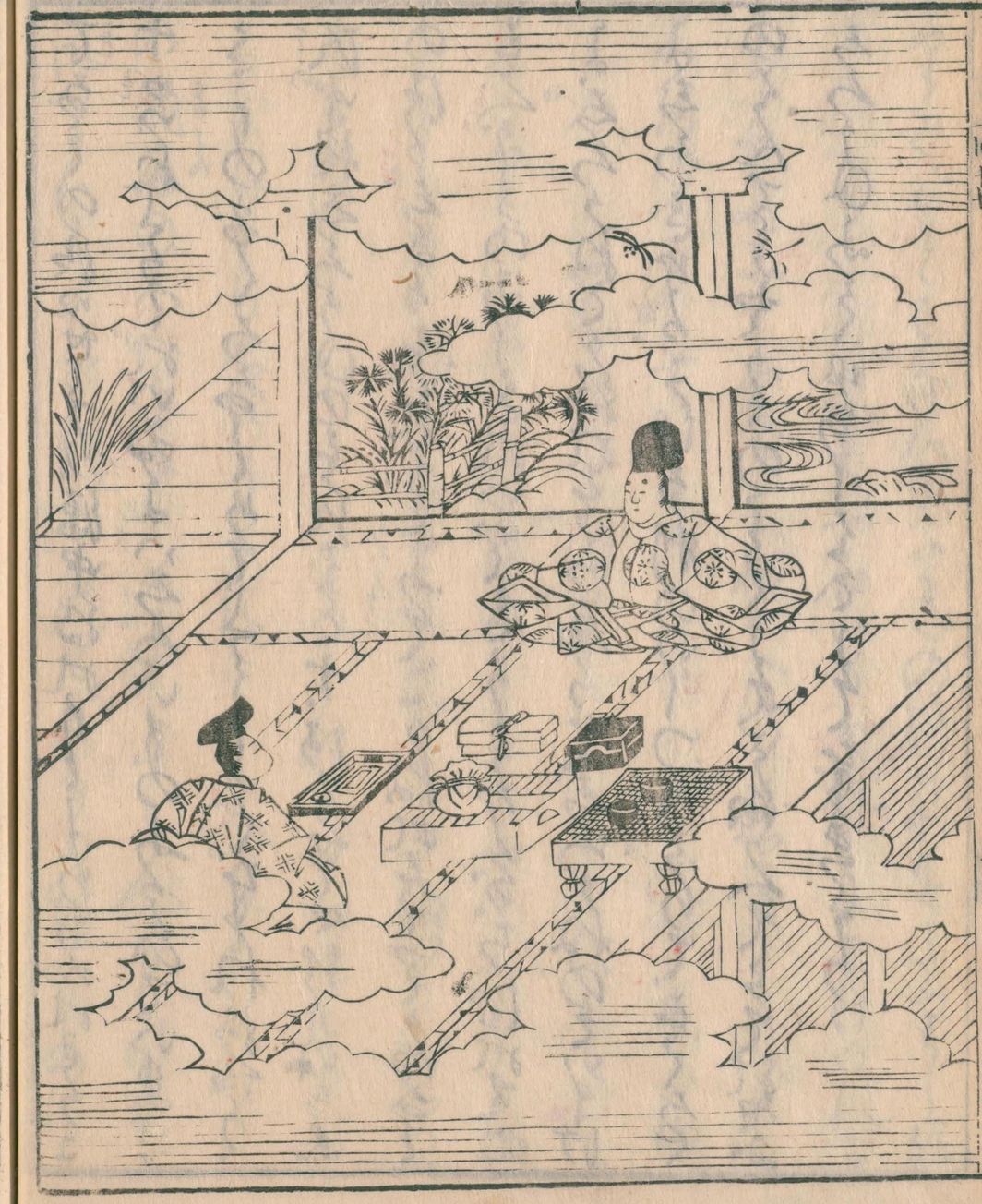
ゐるとく、ゐてそのいきのほうをしるうれ
よよ　　おくくゐる
うくもくとくく、一石いうそん十よまけられご
てうせよ三十果うこゐてはくゐよくそ
のうゐつくて十、うほきすゐれつてをよ海
ゆこゐうこ、ゆよようこゆりうこ
ゐてうろうゐうゐうゐうゐうゐうゐ
よまうろうこいきこのゐのうくく
ゐこゆうゐうれきこ。ゆくぐゐ
ゆこゐひくくうりてつくく
ゐうこうゐうゐうゐうゐうゐうゐ
の酒屋のえみきみくゐうゐうゐ
それつくうりてぐれくくゐそ

檀紙　松紙

てゐこのほいせうう。源中ねれ
十うつれうう、ゐいねよいうろいい
きうりのゐくうゐくゐうゐ
ひ中将うろうのゐれこと十。ほくそうりのうん
のほうろうをねれをくうゐをゐ
もんぐくのゐれいゐをうゐ
よ。ろうねこう絵れをうゐてぐうねのこいけ
ゐうろうをゐるれのいつくうりて。をくく
のそんてこうゐうくのこそれゐふ
ろうゐゐくうゐうゐうゐうゐ

こうろうゐうゐ
ちゃりて上ようこうを
おくうとりてうゐ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

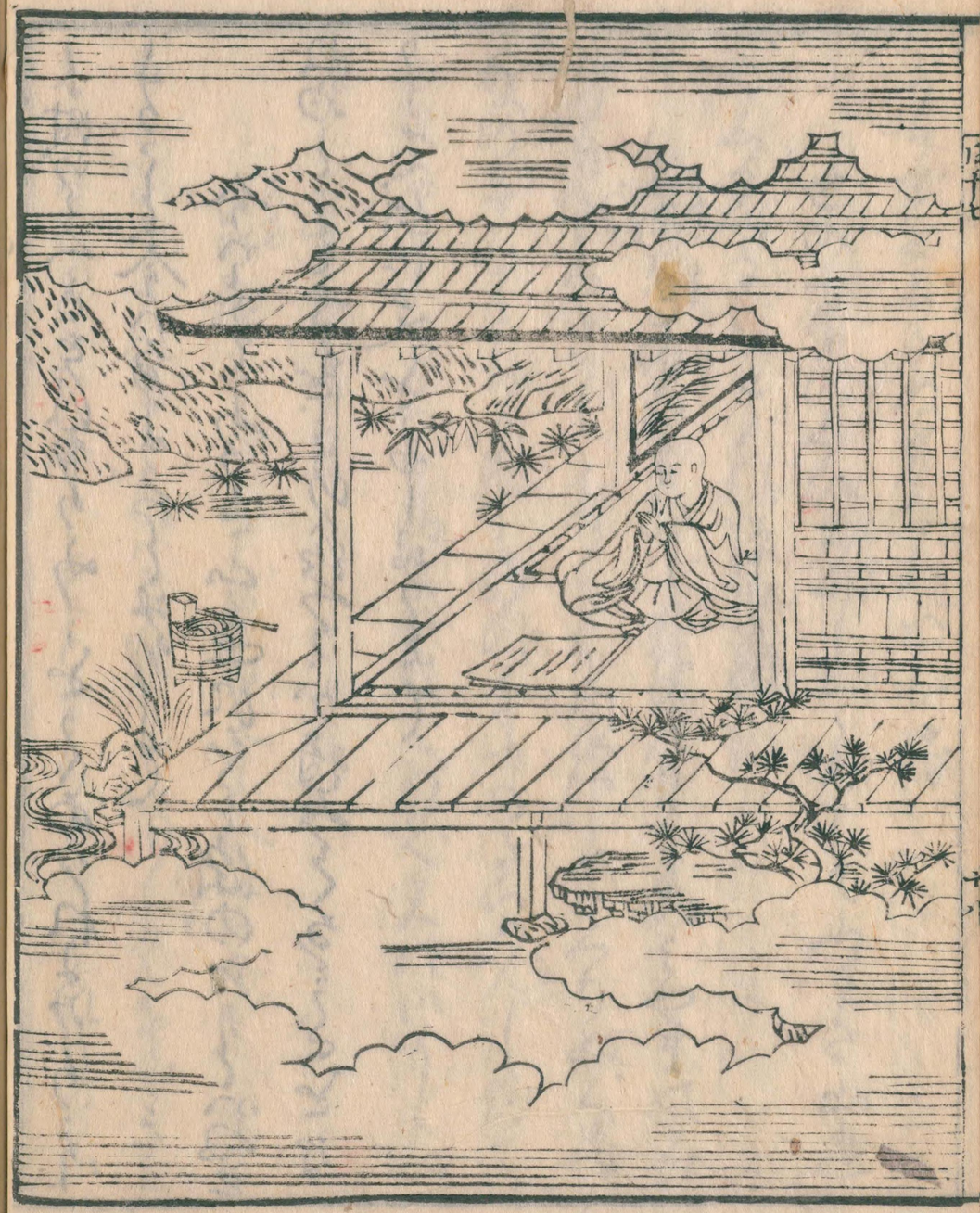
なまくそらそらねうの。ゆうこれうほうれれ
うーのゆゆくうふうひるるむものこれそれさ
里せいとみ給ふるとうくうくうくうくうくう
とうくうくうくうくうくうくうくうくうくう
うくうくうくうくうくうくうくうくうくうく
うくうくうくうくうくうくうくうくうくうく
うくうくうくうくうくうくうくうくうくうく

古今集春やとひのつ
こもれる日ふつこうう
うつろふ
やどもせきもるいほ
まろろ
ろ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

[illegible]ろかねだうをつくりて、いろかねの
ちうつれるく阿せ[illegible]寺おもてもうみ
しきそろへて梅しうよう
東そろりとたをめとて
うへの御ありいのりて
ふりいのそくむそものうれい
さうひあるのいろ[illegible]

おうれとなりせて、くのとものを
ぜひもれる。三月つごりうう
なりて、へ[illegible]ちうをとる
みてなるなる 源宰相おうなく
うを見てつくすを
の歌をもて
地をかえて
ちうそうねして
たのそうあ
の市を
ちうえ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

紬のうまて　　みうめりてめん

うちのうく　　今かうひるれ　　もろして

ふおそそのかうのうしうけう

手とさうくまれとけるみし　おくありのうまけま

へさくれまとさそそそそのかれとをとんくよつもくる代

さそくうきうらうをとんそ

うちめうつ　　絵注　まくへ源宰和かかを

代中和へいまうしうやそぐれあ

君もまのうろ貝なくなるとはみうと

そこようくうておうつられりりへいか月日よをくく海

さう男へのくく佐　うつえたうみれ

楓字をよろ
只ひもろく
和名抄

いおてえようくさそく佐

いみてもつひなと海ろ

ひねん

りてそそそくうの毛れ

まくくはりしうへそそ

うおのはりしてむこそいてとぴくさ

きいてやうち毛れてあよいか

あるものたひ佐をそひそ

をなりあるをや佐へるむ

こ佐そ思そくくほるう中にいそと思

しをさよ佐ろれみてしうつう

とうさうわそくの佐つるくみて

ゆーてをきゐて
鉢をさらあて九芋の
めーて汤をて飲くれ
るくーの物食ふことを
すくるくーてゐふことを
をき来のおろーかー
みつせてあるいる词
あしい

このをみ…ものくゆやうれをんをみくゆるてうく
そをふくし給
ゆをのーゆーて面いつまもそ海ーねそぎいさ
ゆをのそそくうろうーさ。うくうあ給うるものうろ
うるひと学え給。給みをくみ給くみらいさくう
つをみくゆーてをれいうれくおのをそをろうて
たえいり給ぬ。殿のうちゆをりみちて。海とひこう
歩給そうれりみー。海をんそうれりろ拍とそ給うろる
ーくをの給問をとっくーそ給。海をんこうをおとやひて。
その中よつうーとや給

いうーくうそ給ひく。海うそうむとれおくそ給。家
あやーくをとうくーうをなりひあそもれを
らるれうみてあ給歩いうくるきぜ死給。男
くるとへなうそ海うそいうてうそ給へうーるて
そそそ給ーそ給つねよ学くそ給ーそのそ学も
ありえくいうくゆーそうそうるう。く
て多郎々かゆー。なてそのれーあみとそ。家をつ
らりて。そそぐ給そうあそ。おくろひよれ日
をとうて。海むひりそそそそ子をこどもあの人ひる
く。いそうち給。ほるをん人あくをめ学をよ海いり給
よそうくよりて。治のゆーそ家れうゆうみ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

まろを治部卿の名に
並雄しや
おのうめくも已うまう
人をりうこ坊ぐる聲
なるおどろおどろ
うれへこと 然ばそ
又此れいたの誤うて訓
ばしや
笥飯 うけひの六人つ
ねて考るかまり二人よ
そこふそこと支そもさ
てもりけこと
宇治拾遺十 忠恒こ名前を
あるふきをそうよさてこと
訪ふるもうてこと
大鏡 ふんそうこと
西宮記 奏杖こ書杖
内裏式 御書杖

ちくいうりつくうちて
玉大原にをいやそれこ
ものうろんれきこそ
えよれ方よ家ばはそ
(口承畜こ成人兒ヲノトスリイカ)
りくいせこ勢治へこ
ありことをおるめそ
(ヨナシ ナシイ)
くいうちおそくく
くえつくとつうまりて
こことこ、そこのはし
こくとりれんへのおさ

ふこうつこせんとて
治へのめうちをぬこ
とて今るまくふむ
うこよりてでくこ
ちをぬこくめうち
ひくうふうをまんの
こをこうこ、こひそ
うんのこねうれおこ
ひをこうにうこ
をいこねよこれこく
よ如治へうよれてこ

太刀
(ヨミ)
(ヨミ)
(ヨミ)

ゆひくゝ　これハ注
結ふもあり　てゆるゝ
屓するなあの結あり
へし

れるこゝをもて　うまの
まうくさうるこゝろ　紙つゝ
ゝのめ〳〵　いのうえ
よのうえれをけよ　義人の
られて　こゝろ　ちういこゝろ
うこと　お将るこゝろ　まくこゝ
うくゝろてゝろ　ぬこゝろ
乗むゝろもゝろ　ちういこゝろ
るゝこゝろ　六人女に人
こゝろれるむゝろ　海よれつゝくゆくこゝ
もゆひくゝよのうて　約ひ

長門

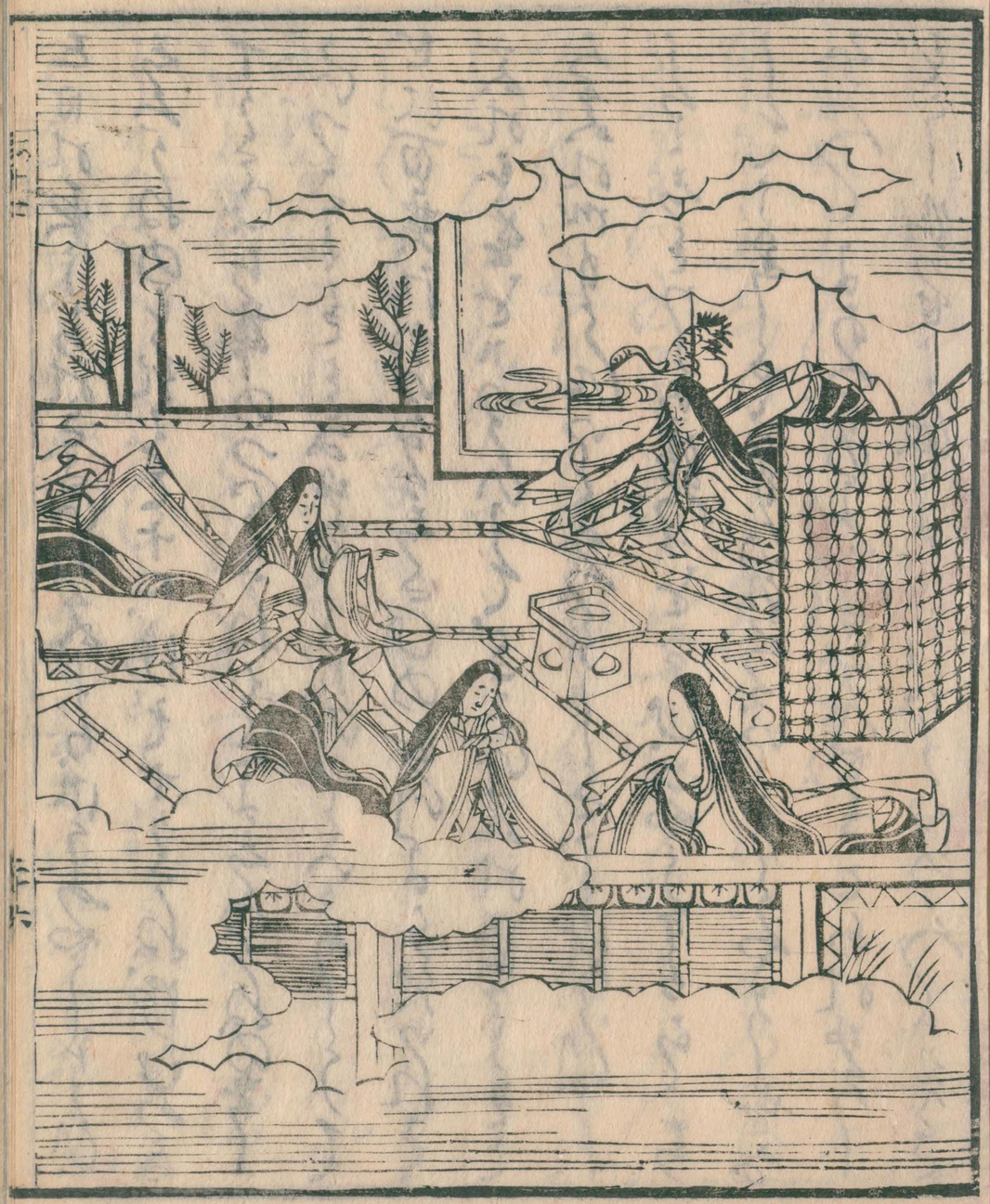
ひやまうり　うくてちごの　ゝくゝ
をもゝくゝろせ　ゝくゝつ　ゝ
ふ無れりのゝつて　ゝる人
なめのゝこゝろ　ゝくゝろ
てたうゝをゝいて　ゝこゝ
うこれこゝをれう　ゝうゝ
なり　今をたのゝくゝ　ぬを
のゝこゝひゝうりそれ　ゝるひ
うひゝて七条の　ゝ
ゝこゝうゝうゆゝ　ゝ
ろうりて　ぬゝこうりぬ　ゝ

藤原秀ラウン

死

ガラス使用

拾遺集 壱三
後撰集 壱五



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

三日ゐ来ともれさきのやうひ
もろうねのもとをとて十二ゐ
ますうそねゐ
ひつ
せて百巻ゐ
えゐをとゐつそ
ろえゐりゐ
なんくよゐりのよせさもんせ
をうー給うせよ

よ女ゐ
布ゐ
つゐゐ
ゐ
ゐ

（ヨセ）

れの人やおくくものの（作々）

給ひてよの日々東院の（ヨセ）

しくいうもうしつ（ヨセ）

（ヨセ）

いきよう（きやう）もあまさえてなどいとねぢけ（ヨセ）

のつ（ヨセ）ゆるさせたまはねばいとかたじけなくいかゞ（ヨセ）

はせんとおぼしわづらひて（ヨセ）

ろひきてはそむつきなくいまきこゆ（ヨセ）

をもらぬのいろあきらかなるうすにび（ヨセ）

ゆひてまれのつ（ヨセ）源氏中れまろ（ヨセ）

ふのをてまきつけめのう（ヨセ）内侍

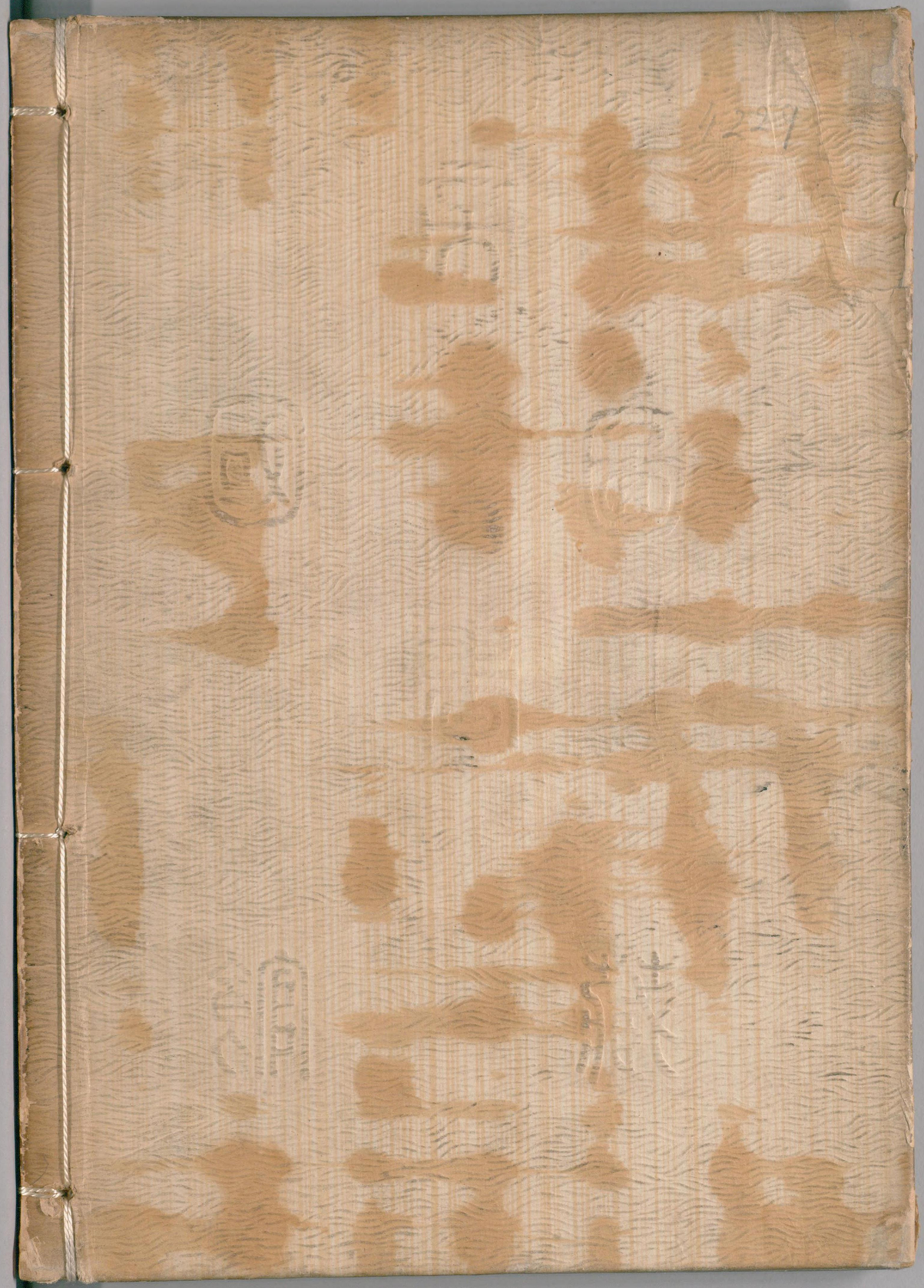
ゆやどき　湯惟子也
屋代弘賢云ゆまとの
八今の湯具へいもし
とりつをゆもしの
好なる一

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用